

# 進路指導実践事例

## 年間計画の 評価・改善・体制整備

「計画のための計画」「実施に無理がある計画」「例年どおりで進化のない計画」で終わらせないために、

次年度の進路指導・キャリア教育の年間計画はどのようにすればよいのでしょうか。

他校の実践例からは、単にスケジュール表を作成すればよいのではなく、

今年度の活動のふり返り、現状を踏まえた見直し、教員の体制整備…などが重要だということが見えてきました。

取材・文／藤崎雅子



### こんな状況を改善したい！

- 学校目標があいまいでは、結局、計画も評価もあいまいなままで済んでしまう(千葉)
- 総合的な学習の時間の実施計画と生徒の実態が乖離していたため、途中で改善せざるを得なかった(和歌山)
- やや場当たりの計画、前年踏襲主義が蔓延している(広島)
- クラスと学校行事で内容が重複しているものも多く、生徒にしてみれば「またか」というムードになってしまつ(北海道)
- 総合的な学習の時間もLHRもいろいろな行事を入れ過ぎて、担当がクラス指導をする時間が取れなかった(島根)
- 総合的な学習の時間が各分掌の寄せ集めになり、一貫性がなかった(北海道)
- 管理職の思いつきで行事が導入され、現場が混乱する(広島)
- シラバスなどを作成しているが、紙キヤラムになっていてうまく機能しません(静岡)
- 臨機応変な変更がしにくく、硬直化している(福岡)
- 総合学習のとりまとめ部署がない。以前は存在していたが、現在は学年任せ。良いものが受け継がれず、意味のない取り組みが継承されている(千葉)
- 進路指導部だけが突っ走って、担当が把握できていないクラスが見られた(愛知)
- 協力的な担任とそうでない担任とのクラスで、生徒たちが得る情報量がまちまちで、生徒たちの積極性にも大きく反映した(東京)

### ■活動評価の工夫

○よりよい実施にするために、迷ったら生徒に聞いてみる。生徒からのアンケートと経験ある先生からの判断のミックスで決めていく(静岡)

○実施時点で記録を残すのが一番！運営上のこと、改善したいと思つたことは、レジメに記録しておき、次年度計画ではそれを見て提案文書を作成する(京都)

○年間100〜130人程度来校する卒業生に対し、調査用紙記入と面談を通じて卒業後の生活状況や定着意識状況などを確認し、進路指導の振り返りを行っています(三重)

○募集人員減に伴い教員数も削減され、学校行事全般の精選が急務です。「行事仕分け会議」を行い、他分掌の行事でもほとんど教員間で評価しているという動きがあります(北海道)

### ■計画の立案と共有の工夫

○学校として「育てたい生徒像」を明確にし、そのために何をいつなすべきかを逆算して計画を立案している(和歌山)

○原案を持った段階で、学年主任や信頼できる担任の先生と話し生徒状況とすり合わせる。とにかく**早めの相談と企画立案**が大切(京都)

○計画どおりに走るだけでなく、**生徒の実態に即した計画の見直し**も行っている(大阪)

### ■教員の体制整備の工夫

○教員の仕事の分散を行い、ゆつたりした計画を立ててゆとりを確保。教員の負担が大きければ絶対に成功しない(北海道)

○関連する分掌の年間計画を統合した図を作り、お互いの状況を把握して役立てるようにしています(長崎)

○保護者や地域の方を含め、**できるだけ多くの人がその企画に関わる**しくみをつくる。そして、その企画の成功が生徒や自分たちにどれだけのメリットがあるのかを明確にする。さらに、成功したときの喜びを共有できるようにする(茨城)



教育研究部副部長  
山本雅司先生

## 広島・県立府中高校

### 活動直後、アンケートをもとに

### 次年度計画の改善策を話し合う

#### アンケートは4段階評価で測定し 最上位評価に着目して分析

府中高校の総合学習「キャリアリサーチ」では、活動ごとに関係者へのアンケートが実施されている。例えば、2学年の修学旅行に総合学習の一環として組み込まれている大学・企業・官公庁訪問研修では、生徒アンケートのほか、研修先にもアンケートを行っている。「50近い研修先すべての状況を少数の教員で把握するのは困難なので、アンケートで幅広く声を拾うことが有効」と、総合学習を企画する教育研究部の副部長 山本雅司先生。生徒アンケート結果では各研修先の交通の便や充実度がわかり、次年度の研修先選定に役立つという。また、研修先アンケートからは「まじめで礼儀正しいが積極性が足りない」という生徒の課題や、「積極的に参加し質問が出るようにするためには事前学習が大切」といった運営上の改善点が見えてきたそうだ。

アンケート作成において、山本先生は3つの点に留意している。1つは、各項目を「4…大変よかった」「3…よかった」「2…あまりよくなかった」「1…よくなかった」といった4段階で評価していること。5段階では「どちらでもない」という意見が多くなりがちで、肯定的なのか否定的なのかわかりにくいからだ。「ただし注目するのは『3』『4』の合計数値ではなく、『4』の最上位評価。ここをいかに伸ばすかを目標にしています」

2つめは、同種類の活動に関するアンケートでの質問項目は、なるべく前回とそろえること。時系列推移や年次別傾向など、多様な分析ができるようにしている。そして3つめは、フリーコメント欄の設置。数値の裏にある具体的な声から、課題が読み取れるという。

#### 活動ごとに反省会を重ね 年度末に「実践集」を作成

教育研究部は活動ごとに、こうしたアンケート結果をもとに反省会を実施。取り組みの効果を確認し、次年度実施に向けた改善策まで話し合っている。その内容は実施学年団のほか1つ下の学年団へも報告し、次年度の参考にしてもらうという。

>>> School Data  
普通科 / 1912年創立  
生徒数 / 718人  
(男子324人・女子394人)  
進路状況(2009年度実績) /  
大学 81.1%・短大 4.7%・  
専門 4.3%・就職他 9.9%  
広島県府中市出口町898  
TEL 0847-41-4223  
URL http://www.fucyu-hiroshima-c.ed.jp/

**総合学習「キャリアリサーチ」**  
生徒の主体的な進路選択能力の育成を目指した、3年間のキャリア教育プログラム。大学教授による教育講演会、オンラインキャンパス参加、希望進路と関連する大学・企業・官公庁を訪問する研修修学旅行、時事問題を取りあげた、ディベートなどを行う

#### 研修修学旅行後の研修先へのアンケート

広島県立府中高等学校 宛

平成21年度 第2学年研修修学旅行  
グループ別研修 事後アンケート<研修先用>

研修機関名: \_\_\_\_\_

回答者 役職: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_ 様

次の4段階評価で、下の質問項目について番号を○印で囲み、回答してください。

4: 大変良かった (良くてできた)    3: 良かった (できた)  
2: あまり良くなかった (あまりできなかった)    1: 良くなかった (できなかった)

番号	質問項目	4	3	2	1
【研修した生徒について】					
1	規律 (時間厳守・グループ行動等)	4	3	2	1
2	マナー (礼儀・挨拶・言葉遣い等)	4	3	2	1
3	身だしなみ (服装・頭髪等)	4	3	2	1
4	行動 (研修を受ける姿勢・指導を受ける態度等)	4	3	2	1
5	コミュニケーション (質問・回答等)	4	3	2	1
【研修先にとって】					
6	研修の趣旨・目的の理解について	4	3	2	1
7	学校の事前指導・学校との連携 (連絡) について	4	3	2	1
8	研修内容 (時間を含む) について	4	3	2	1
9	研修の受け入れについて	4	3	2	1

「年度末の忙しさに紛れて不十分な振り返りにならないよう、新鮮な記憶のあるうちに行っています」  
また、年度末には年間総括として、それまでに積み上げた報告書をもとに「実践集」を作成。1年間のキャリア教育の成果と課題を、全教員で共有している。「アンケートや評価の結果を閉じた状態にしておくのではなく、実践集として広く共有することで、多くの先生の理解と協力につながりたいと思います」





2年総学担当・進路指導部  
野泉武志先生



進路指導部長  
杉原真也先生



3年総学担当・進路指導部  
堀 浩司先生

## 滋賀・県立守山高校

# 進路指導部と学年団の連携を 強め計画を実践できる体制に

### 担任が主体性を 発揮できるように

いかにすばらしい計画を立てても、生徒を直接動かす担任の理解や意欲がなければ効果は小さくなってしまう。総合学習と進路LHRで3年間の計画的な進路指導を展開する守山高校では、かつて、進路指導部の独り相撲も見られたという反省をもとに体制を整備。現在は進路指導部と学年団の連携により、きめ細かい進路指導が確実に実践されている。

連携体制を支えるポイントの一つは、進路指導部と担任とのパイプの強化だ。総合学習をプランニングする進路指導部と、実際に授業を行う担任。両者のパイプ役として、各学年に総合学習担当が置かれている。年度始めに総合学習のシラバスが配布されているが、さらに毎週、学年の総合学習担当が進路指導部を訪ねて総合学習の進め方について打ち合わせ、その内容を学年会議で全担任に伝達している。打合せでは「内容だけでなく、熱も伝えることが大切」と前進路指導部長の堀浩司先生。

>> School Data  
普通科 / 1963年創立  
生徒数 / 707人  
(男子321人・女子386人)  
進路状況(2009年度実績) /  
大学 87.1%・短大 2.2%・  
専門 1.3%・就職 0.9%・  
その他・未定 8.6%  
滋賀県守山市守山3-12-34  
TEL 077-582-2289  
URL <http://www.moriyama-h.shiga-ed.jp/>

「昨年はこれによって生徒がどう変化したとか、次の活動にどうつなげると効果的だという具体的な話をし、意義を深く理解してもらおうように努めています」

また、当初は進路指導部がすべての企画を細部まで主導していたが、担任主導の活動を設けたことも効果的だったという。昨年度から小論文指導や進路レポートなど、部分的に学年主導で細やかな対応ができるよう変更。また今年度から、志望校検討会や模試結果分析会の司会進行を学年団に委任した。

「与えられたメニューをマニュアルどおりに行うだけでなく、生徒の状況に応じた柔軟な指導や、会議での関連な意見交換の促進につながっていると思います」

### 年度末の総括会議で 体制についても仕切り直し

こうした負担増を伴う体制変更は担任に反発されかねないが、同校では年度末の会議を通すことで納得感が得られるよう努めている。まず、2月に各分掌・教科が1年間を振り返る総括会議において、進路指導の体制面の改善案も提出。そこで出た意見をもと

**総合学習「人間探求学」**  
将来の自分が豊かに「実る」ための「根っこ」を育てる学習という位置づけで、進路指導の一環として実施。1学年は「自分と社会の関わり」、2学年は「自分と学問の関わり」、3学年は「自分はどんな生き方をすべきか」をテーマに、フィールドワークなどに取り組む

に、3月に次年度の年間計画を伝える職員会議で新体制を提案している。

また、担任に「大変でも頑張ろう」と感じてもらうためにも、活動ごとの生徒アンケートコメントや感想文は可能な限り翌日にまとめて教員や生徒に配布している。「生徒のためになっているという事実を、気持ち冷めないうちに共有することで、次の活動に勢いを与えたい」と、担当者は徹夜で作業にあたることもあるという。

### 総合学習の実践体制

